

サテライト 蜻蛉リハビリだより

4月号

糖尿病こそ専門的チーム支援が大切



糖尿病に対する認識が乏しい利用者・家族が一定数おられる・・・というのは研究結果からもよく報告されています。
「管理はできてないが、それが生活には大きく影響していない」という利用者の自己管理意識をどうやって高めていくか・・・
生活の場に密着したケアマネとの関係が大きなカギになると言われています。

そんな糖尿病利用者に対し、通所リハでは食事、運動といった生活習慣に対し、人それぞれ取り組める部分からゆっくり・しっかりと・・・着実に効果のある支援が重要であり、そのための専門的な介入を心掛けています

糖尿病の悪化・・・

糖尿病を有するA氏。家事全般を夫が担い、本人はTV中心の不活発な毎日でした。A氏は認知機能の低下と元々の性格から糖尿病の治療意識は乏しく、夫は調理に自信がなく食事指導を拒まれていました。その為、徐々に悪化し、インスリン注射が必要となりました。

食事療法		運動療法	
月	火	水	木
朝	○	○	○
昼	○	○	○
夜	○	○	○
散歩	○	○	○

間違った食事療法

夫は「塩分」のみを意識していたため、CMが受診に同行し、食事の工夫などを医師に提案して頂くことで食事療法への気持ちに変化がありました。そこで、本人・夫・栄養士・CM・リハスタッフでリハ会議を開催。栄養士を中心に主食の食パンをお粥に変更するなどといった夫が負担に感じにくい範囲での見直しが出来ました。また、通所で提供している糖尿病食を紹介し、どういった食材を取り入れることが良いのかを伝えました。

家族に合わせた運動療法

散歩に連れ出してあげた方がよいと夫は感じているものの、「時間がかかる・・・」と週0~1回の実施状況でした。散歩定着の為の運動の習慣化に向けて、安全かつ負担が少ない椅子からの立ち座りによる筋力増強運動の提案・導入を行いました。結果、運動機会の習慣化に繋がりました。蜻蛉では確実な運動の実施と継続による効果を目的に、協力頂く家族へのフィードバックも積極的に行っています。

先週は散歩に2回も行けましたね！素晴らしい！他の運動もまずは1日2回から頑張れそうですか？

クラブ活動紹介 VOL.5



「張り子」 今年の干支 イノシシ

作りたい大きさに風船を膨らませ、それに新聞等紙を何重にも重ねて貼り折り紙や画用紙を使って色や顔のパーツのデザインを考えていただきました。

利用者同士で相談しながら、完成後は涙を流して喜ばれる方や自宅の玄関に飾り、家族にも上手にできていると称賛を受けてうれしかったと話されている方もいました。



自身でアイデアを考えることにおもしろみ、やりがいを感じている方も多く、自分で材料を購入して新たに作成、家族や友人へプレゼントされている方もいました。

クラブ活動をきっかけに、自分にもできると自宅での活動につながり、完成作品を通して家族や友人との交流が広がる機会となりました。

利用者作品紹介 ～編み物～



地域の編み物教室に月1回電車で行われています。このような外出の機会を絶やさないことが、1番のリハビリテーションだと考えています

編み物が楽しい！認知症の予防にもなる！！と頑張っています

ご連絡おまちしております！！

介護老人保健施設鴻池荘
サテライト蜻蛉
TEL 0745(65)2201
FAX 0745(65)2250

担当者：近藤、石田
ご利用に関する手続きや説明等は相談員がご自宅まで伺います

